

## 高齢者が見やすいと感じる色合いと書体 ～印象に残るパンフレットの作製を目指して～

新潟医療福祉大学看護学科 高野末裕, 高橋智美

【背景・目的】本邦は諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行している。加えて医療水準が進歩したことで、後期高齢者にも手術が選択されることが多くなってきた。高齢者が手術を受けると術後合併症を発症することがある。その中でも術後せん妄は高齢全身麻酔患者の 17.1%に発症がみられ、術後の回復が阻害されることがある。術後せん妄の発症要因のひとつには術前不安があげられている。術前オリエンテーションは、術前不安予防に有効であるという報告がある。その中でも場所を選ばず容易に行えること、手術当日まで繰り返し自由に見ることができることなどの理由からパンフレットが用いられることが多い。しかし高齢者は視覚機能や記憶力、理解力が低下してくる。高齢者が見やすいと感じる色合いや書体について白内障手術を受ける患者は、黒地に白文字で太い書体が見えやすいという報告があるが、健康な高齢者を対象とした研究は実施されていない。そのため、健康な高齢者が見やすいと感じる色合いや書体について実態調査し、その視覚特性を知る。

### 【方法】

- 研究デザイン：記述的デザイン 実態調査
  - 調査方法；
    - 属性（性別、年齢、眼鏡使用の有無、白内障症状の有無、白内障手術の有無）の聞き取り。
    - 「黄色地に黒文字」、「黒地に白文字」、「白地に黒文字」、「青地に黄色文字」の色合いの見やすさを点数化。
    - 「明朝体」、「ゴシック体」、「創英角ポップ体」、「丸ゴシック体」の書体の見やすさを点数化。  
※点数は最も見やすいものから「4, 3, 2, 1」とし、見やすいと感じるものがなければ全て 0 点とする。
    - 調査時、対象の手元照度を 100～200lx 程度に調整する。
  - 分析方法；記述統計、推測統計（色合いと書体 分散分析 一元配置、t 検定、属性との比較  $\chi^2$  検定）
  - 調査対象；研究協力の得られた健康な高齢者 20 名。
  - 調査時期；平成 27 年 8 月
- 倫理的配慮  
データはすべて整理番号制として個事例が特定されないようにした。本学倫理委員会を受審し承認(17610-15810)を得た。
- 用語の定義  
視覚特性：物を見たときに起こる感覚や特徴。  
健康：疾病と付き合いながらも在宅で自分らしく生活していること。

【結果】対象 20 名の属性は表 1, 2 に示す。色合いで見やすい順は黄色地に黒文字、白地に黒文字、黒地に白文字、青地に

黄色文字であり、黄色地に黒文字と青地に黄色文字、白地に黒文字と青地に黄色文字では有意差が見られた（表3）。書体で見やすい順はゴシック体、丸ゴシック体、創英角ポップ体、明朝体の順であり、明朝体とゴシック体では有意差が見られた（表 4）。属性との関係では、検査時の眼鏡使用の有無は創英角ポップ体とゴシック体で有意差がみられた（表 5）。

表 1 対象の性別

	標本数	平均	範囲
男	4	73.75	68-81
女	16	75.94	65-87

表 2 対象の身体状況

	有	無
検査時眼鏡	6	14
白内障症状	2	18
白内障手術	4	16

表 3 色合いの見やすさ

	平均	分散	標準偏差	
黄色地/黒文字	2.9	1.25	1.12	* * *
黒地/白文字	2.2	1.43	1.20	
白地/黒文字	2.8	1.64	1.28	
青地/黄色文字	1.6	0.78	0.88	

表 4 書体の見やすさ

	平均	分散	標準偏差	
明朝体	1.85	1.40	1.18	* * *
ゴシック体	2.85	1.08	1.04	
創英角ポップ体	2.35	2.03	1.42	
丸ゴシック体	2.45	1.21	1.10	

表 5 眼鏡使用と書体の関係

	眼鏡使用有	眼鏡使用無
創英角ポップ体	18.11	28.88
丸ゴシック体	18.89	30.11

\*  $P < 0.01$  \*\*  $P < 0.05$

【考察】本研究では、健康な高齢者が最も見やすい色合いが黄色地に黒文字であった。大栗らの報告では、一位に黒地に白文字を 14 名が、二位に黄色地に黒文字を 10 名がみやすいと選択している。本研究では一位と二位が逆であるものの、両者に有意差はなく、白内障手術を受ける患者と健康な高齢者では見やすい色合いに違いがないことが明らかになった。また前述の大栗らは書体について、創英角体、明朝体、ゴシック体の順で見やすいとしているが、これらには有意差は見られていない。しかし、本研究では明朝体とゴシック体に  $P < 0.01$  の水準で有意差がみられ、健康な高齢者が見やすい書体はゴシック体であることが明らかになった。更に検査時の眼鏡使用の有無で創英角ポップ体と丸ゴシック体に有意差がみられたことから、眼鏡を使用している場合は、これらの書体が見やすいとは言えないと考えられる。弱視児童生徒を対象にした研究では、丸ゴシック体はゴシック体でありながら線が太すぎないために漢字の線がダブって見えない点が良いとされているが、老眼鏡をかけるとピントが合うことから太い文字でなくても見やすくなると考える。

【結論】本研究では、健康な高齢者が最も見やすい色合いが黄色地に黒文字、書体がゴシック体であることが明らかとなった。また、眼鏡使用者にはあえて太い書体を使用せずパンフレットを作製してもよいことが示唆された。本研究の限界は調査対象数が少ないことである。そのため今後は調査数を増やし更に検証を進めていきたい。